

## 【問 題】

下記の文章は「金融商品に関する会計基準Ⅳ．第 2 項」に関する規定の抜粋である。

## 2 有価証券

## (1) 売買目的有価証券 テキスト P90 参照

- 15 時価の変動により利益を得ることを目的として保有する有価証券は、  
（ ① ）をもって貸借対照表価額とし、評価差額は（ ② ）として処理する。

## (4) その他有価証券 テキスト P101 参照

- 18 売買目的有価証券、満期保有目的の債券、子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券は、（ ① ）をもって貸借対照表価額とし、評価差額は洗い替え方式に基づき、次のいずれかの方法により処理する。

- (1) 評価差額の合計額を（ ③ ）に計上する。  
(2) 時価が取得原価を上回る銘柄に係る評価差額は（ ③ ）に計上し、時価が取得原価を下回る銘柄に係る評価差額は（ ④ ）として処理する。

設問 1：上記文章の空欄に入る語句を答えなさい。

設問 2：上記、売買目的有価証券の期末評価の処理に関する規定において、時価が値上がりした場合の処理につき、複式簿記の原理から（8 要素の表）考えると、どの組み合わせになるか。該当する「勘定」を丸で囲みなさい。

設問 3：上記、その他有価証券の期末評価の処理に関する規定において、時価が値上がりした場合の処理につき、複式簿記の原理から（8 要素の表）考えると、どの組み合わせになるか。該当する「勘定」を丸で囲みなさい



金融商品基準  
のQR

## 【解答欄】

## 設問 1

①		②		③		④	
---	--	---	--	---	--	---	--

## 設問 2 売買目的有価証券

【借 方】	【貸 方】
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生

## 設問 3 その他有価証券

【借 方】	【貸 方】
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生

## 【解答・解説】

有価証券の評価に関する論点では、①期末評価の方法と論拠、②評価差額の処理方法と論拠について、計算と理論をセットで学習することが重要である。本問では、会計基準の規定内容を読み取り、求められている会計処理について「複式簿記の原理」から答えることができるかどうかを問うている。

### 1 金融商品に関する会計基準の規定内容

財務諸表論の理論問題対策のために、計算と理論についてはセットで学習をしておくこと。

なお、理論に関しては、「会計基準本文」とその論拠である「結論の背景」をセットで学習してほしい。空欄を埋めると下記のようになる。

#### (1) 売買目的有価証券

15 時価の変動により利益を得ることを目的として保有する有価証券は、  
(①時価)をもって貸借対照表価額とし、評価差額は(②当期の損益)として処理する。

#### (4) その他有価証券

18 売買目的有価証券、満期保有目的の債券、子会社株式及び関連会社株式以外の有価証券は、(①時価)をもって貸借対照表価額とし、評価差額は洗い替え方式に基づき、次のいずれかの方法により処理する。

- (1) 評価差額の合計額を(③純資産の部)に計上する。
- (2) 時価が取得原価を上回る銘柄に係る評価差額は(③純資産の部)に計上し、時価が取得原価を下回る銘柄に係る評価差額は(④当期の損失)として処理する。

### 2 売買目的有価証券及びその他有価証券の期末評価処理方法

時価が値上がりした場合の処理方法については、「複式簿記の原理」から、資産の減少もしくは負債の増加とは結びつかないため、以下の2パターンとなる。

#### 【第1法：売買目的有価証券】

【借 方】	【貸 方】
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生

#### 【第2法：その他有価証券】

【借 方】	【貸 方】
資産の増加	資産の減少
負債の減少	負債の増加
純資産の減少	純資産の増加
費用の発生	収益の発生